



基本原則

FUNDAMENTAL PRINCIPLES

1992年 世界スカウト機構発行



財団法人

ボーイスカウト日本連盟

目 次

はじめに	1	INTRODUCTION	1
定義	2	DEFINITION	2
スカウト運動の目的	5	PURPOSE OF THE SCOUT MOVEMENT	5
スカウト運動の原理	6	PRINCIPLES OF THE SCOUT MOVEMENT	6
スカウト教育法	10	SCOUT METHOD	10
世界スカウト憲章第1章	16	CONSTITUTION	16

〈訳 注〉

本資料は 1992 年に世界スカウト機構から発行された「Fundamental Principles」の訳です。「基本原則」という表題の訳については、「根本原理」という語が使われることもありますが、規約としての扱いであることと、規約の本文中に「原理」という語が出てくることから、この語としました。また、従来出版されている翻訳資料とは違う表現で訳した箇所があります。



World Organization
of the Scout Movement
Organisation Mondiale
du Mouvement Scout

はじめに

「基本原則」という単語は、スカウティングにおいてはスカウト運動の単一性によって立つ、すなわち目的、原理、方法といった基本的な要素に言及する際に用いられる。したがって、スカウティングは、それぞれの社会のニーズに合わせて多様な形態をとると同時に、この基本原則は世界中のスカウト運動を結びつける共通の基準となっている。これらの基本原則は世界スカウト機構(以下WOSMという)の憲章第1章に述べられており、WOSMの全加盟連盟を特徴づけている。

現在の基本原則の文言は世界的な規模での多年にわたる研究を経て、1977年にモンリオールで開催された第26回世界スカウト会議で採択されたものである。この基本原則は世界機構の100を越す加盟連盟によって同意された唯一の権威ある声明である。

「スカウト運動」という見出しの下で、WOSMの憲章の第1章は以下のことを扱っている。

- a) スカウティングの定義
- b) スカウティングの目的
- c) スカウティングの原理とちかいとおきてにおける言い表し方
- d) スカウト教育法

特別に断らない限り、本資料にある引用は全てこの第1章からのものである。

INTRODUCTION

The word "fundamentals" is used in Scouting to refer to the basic elements upon which the unity of the Movement rests, i.e. its purpose, principles and method. Thus, while Scouting takes many different forms adapted to the needs of each society, the fundamentals are the common denominators that bind the Movement throughout the world. These fundamentals are stated in Chapter 1 of the Constitution of the World Organization of the Scout Movement and characterize all member organizations of WOSM.

The present wording of the fundamentals was adopted by the 26th World Scout Conference held in Montreal in 1977, after a considerable number of years of study at worldwide level. It represents the only authoritative statement agreed upon by the more than one hundred member organizations of WOSM.

Under the title of "The Scout Movement" Chapter 1 of the Constitution of WOSM deals with:

- a) the definition of Scouting
- b) the purpose of Scouting
- c) the principles of Scouting and their expression in a Promise and Law
- d) the Scout method.

Unless otherwise stated, all quotations in this section are from that Chapter.

定義

スカウト運動は「以下に述べるように創始者によって考案された目的、原理、方法に従って出生、人種、信条の区別なくすべてに開かれている青少年のための自発的で、非政治的な教育運動である」と定義されている。

スカウト運動の全ての側面を一つの文章で表現することはできないということに先ず着目すべきである。上述した定義の冒頭の句は、このことを認めるものであり、スカウト運動の創始者であるロバート・ベーデン・パウエルが考え出した目的、原理、方法は、この定義の不可欠な部分であるという事実を強調するものである。これらの詳細については、以下に述べたい。この定義の中で用いられているキーワードは、本運動の主要な特徴を表したものであり、以下に簡単に説明する。

運動という語は、1つの目標に向けて努力して進める一連の組織化された活動のことである。運動はしたがって、達成されるべき目標と、この達成を確実にするためのある種の組織の両方の意味を含んでいる。

スカウティングの**自発的な行為**という特徴は、加盟員は自らの自由意思によって、これを忠実に守るということを強調するものであり、そしてそれは本運動の基本原則を受け入れているからである。このことは青少年と成人の両方に適用される。

教育運動として、スカウティングは**非政治的**である。この意味においてスカウティングは政治の主たるテーマと、たいていは政党というシステムがもたらす権力闘争に関わるものではない。この非政治的特徴は全ての各国連盟から本質的に求められるものであり、本運動の基本的な特徴である。しかしながら、スカウティングはある特定の国の中の政治的現実から完全に分離しているということの意味するものではない。第一に、スカウティングは運動であり、責任を持った市民性を育てることをねらいとした運動だということである。すなわち、市民としての教育は国内の政治的現実を認識することなしには成し遂げられないのである。そして第二に、ス

DEFINITION

The Scout Movement is defined as "a voluntary non-political educational movement for young people, open to all without distinction of origin, race or creed, in accordance with the purpose, principles and method conceived by the Founder as stated below".

It should be noted at the outset that it is not possible to express all aspects of the Scout Movement in one independent statement. The last phrase of the definition given above recognizes this and emphasizes the fact that the purpose, principles and method conceived by Robert Baden-Powell, the Founder of the Scout Movement, are an integral part of the definition. These will be dealt with in detail in the following paragraphs. The key words used in the definition, which express the main characteristics of the Movement, are briefly explained below.

The word **Movement** means a series of organized activities working towards an objective. A movement thus implies both an objective to be achieved and some type of organization to ensure this.

The **voluntary** character of Scouting emphasizes the fact that members adhere to it by their own free will and because they accept the fundamentals of the Movement. This remark applies both to young people and adults.

As an educational Movement, Scouting is **non-political**, in the sense that it is not involved in the struggle for power which is the subject-matter of politics and which is usually reflected in the system of political parties. This non-political character is constitutionally required from all national associations and is a basic characteristic of the Movement. This does not, however, mean that Scouting is completely divorced from political realities within a given country. In the first place, it is a Movement whose aim is to develop responsible citizenship; this civic education cannot be accomplished without an awareness of political realities within a country. In the second place, it is a Movement which is based upon a number of

カウティングは本運動の加盟員の政治的な選択を規定する基本的な規則と信念といういくつかの原理に基づいた運動であるということである。

スカウティングは**教育運動**として定義されている。このことは間違いなく、スカウティングの本質的特徴である。ということで、このことについては以下に詳しく説明する。

教育は、用語の最も広義な意味で、人の資質の総合的な発達を目指すプロセスとして定義できる。スカウティングはしたがって、**純粋にレクリエーション的な運動**（世界のある所でははっきりとその傾向が示されているイメージである）とは明確に**区別されねばならない**。スカウティングにおけるレクリエーション的な活動の重要性にもかかわらず、これらは目的を達成する1つの手段として考えられており、それ自身が目的ではない。

教育はまた、**特定の知識あるいは技能を修得するプロセスと区別されねばならない**。上に定義したように、教育は「知ることを学ぶ」知的能力の発達と「生きることを学ぶ」姿勢を伸ばすことをもたらすものであり、特定の知識あるいは技能を修得するプロセスは「為すことを学ぶ」こととして認められている。先の2つの側面は本運動にとっては基本的なものだが、特定の知識あるいは技能の修得は目的を達成するための手段である。すなわち目的は教育することである。

創始者自身の言葉の中に「それから、ボーイスカウトの訓練には最も重要なねらいがある。それは**教育**することである。教え込むのではなく、いいかな、**教育**することなのだ。すなわち、少年が自らの望むことを一人で学ぶように引き出すことである。それが彼の中に**性格を作り上げるものである。**」（引用：1）というのがある。

教育という言葉は普通、学校制度と結びつけて考えられているが、それは教育の1つの形態に過ぎない。ユネスコの定義によると3つの教育のタイプに区分することができる。

principles – fundamental laws and beliefs – which condition the political options of members of the Movement.

Scouting is defined as an **educational** movement. This is undoubtedly its essential characteristic and is therefore developed below at some length.

In the broadest sense of the term, education can be defined as the process aiming at the total development of a person's capacities. Scouting must therefore be clearly **distinguished from a purely recreational movement**, an image which it tends to project in some parts of the world. Despite the importance of the recreational activities in Scouting, these are conceived as a means to an end, and not as an end in themselves.

Education must also be **distinguished from the process of acquiring particular knowledge or skills**. As defined above, education involves the development of abilities of the mind "learning to know" and the development of attitudes "learning to be", while the process of acquiring particular knowledge or skills is known as "learning to do". While both aspects are basic to the Movement, the acquisition of particular knowledge or skills is a means to an end; that end being education.

In the Founder's own words: "*Here, then, lies the most important aim in the Boy Scout training – to **educate**; not to instruct, mind you, but to **educate**; that is, to draw out the boy to learn for himself, of his own desire, the things that tend to build up character in him*".(1)

The word education is normally associated with the school system, which is, however, only one form of education. According to UNESCO, three types of education can be distinguished.

●**フォーマル教育**は階層状に構成されており、年代別に等級づけされた小学校から大学に至る教育制度である。

●**インフォーマル教育**は生涯に及ぶプロセスであり、それによって各人は自らの生活環境の中で日々の経験や教育的な影響や人的物的資源から姿勢、価値感、技能、知識を身につける。

●**ノン・フォーマル教育**は制度上確立された公式の制度外の組織化された教育活動で、一致できる学習者と一致できる学習目標に対応しようとするものである。

スカウティングは最後のタイプに属するものである。というのは、公式の**教育制度外**で行われているが、教育上のねらいを持って組織された機関であり、一定の方向性を持った人たちを対象に行われるからである。

スカウティングそのものは**青少年**を対象にしたものである。スカウティングは青少年の運動であり、成人の役割はスカウティングの目標を達成するという点で青少年を援助することである。スカウト運動における青少年の年齢幅には大まかな傾向はあるが、この問題を決定する厳密な規則はない。それは各国連盟がそれぞれの連盟内で適切な年齢幅を決めるのである。スカウティングは出生、人種、階級あるいは信条の区別なく全てに開かれている。したがって、スカウト運動の基本的な行動や考え方の指針の1つは差別をしないことが原則であり、加盟員はスカウティングの目的、原理、方法を自発的に守ることが条件である。

● **Formal education** is the hierarchically structured, chronologically graded, educational system running from primary school through to university.

● **Informal education** is the lifelong process whereby every individual acquires attitudes, values, skills and knowledge from daily experience and the educative influences and resources in his or her environment.

● **Non-formal education** is organized educational activity outside the established formal system that is intended to serve an identifiable learning clientele and identifiable learning objectives.

Scouting belongs to the last type of education since, while it takes place outside the formal **educational** system, it is an organized institution having an educational aim and addressed at a predetermined public.

Scouting addresses itself to **young people**; it is a youth movement, where the role of adults consists of assisting young people in achieving the objectives of Scouting. While there are broad trends concerning the age-range of the young people in the Movement, there are no hard and fast rules governing this subject, and each national Scout organization determines the age-ranges applicable within it. Scouting is open to all without distinction of origin, race, class or creed. Thus, one of the basic precepts of the Movement is the principle of non-discrimination, provided that the person voluntarily adheres to its purpose, principles and method.

スカウト運動の目的

運動の目的は、その存在の基礎となる動機のことであり、運動の目標あるいはねらいを示すものである。スカウト運動の目的は「青少年が個人として、責任ある市民として、地域、国、国際社会の一員として、身体的、知的、社会的、精神的な潜在的能力を十分に達成するように彼らの発達に貢献することである。」

目的についてのこの記述は、人の資質の全面的な発達を目指すスカウト運動の教育的特徴を強調するものである。教育の基本的な原理の1つは、人の持つ身体的、知的、社会的、精神的な側面はそれぞれが無関係では発達させることはできないというものである。人の発達のプロセスは、定義によれば、さまざまな要素が統合されたものである。

スカウト運動の目的についての記述は、スカウティングは青少年の発達に役立つ幾つかの要因の1つに過ぎないということを強調しているということに注目すべきである。スカウティングはしたがって家庭、学校、宗教、その他の社会的な機関に取って代わることを意味するものではない。スカウティングはこうした機関の教育的効果を補完するものと考えられている。

責任ある市民という概念（これはスカウティングの基本的な達成目標の1つである）は幅広い状況の中で理解されねばならないということに注目することも重要である。要するに、人は何よりも先ず個人である。この個人というのは自分の住む地域社会の中に組み込まれている。この地域社会はより広い政治的な組織（地区、省、州、小郡など）の一部であり、その総体の言い方が独立州、国である。後者はまた、国際社会の一員である。責任ある市民は自らが属するさまざまな社会における自らの権利と義務を知っておかねばならない。

PURPOSE OF THE SCOUT MOVEMENT

The purpose of a movement is the reason underlying its existence; it represents its objective or aim. The purpose of the Scout Movement is "to contribute to the development of young people in achieving their full physical, intellectual, social and spiritual potentials as individuals, as responsible citizens and as members of their local, national and international communities."

This statement of the purpose emphasizes the educational character of the Movement which aims at the total development of a person's capacities. One of the basic principles of education is that the dimensions of the human being – namely the physical, intellectual, social and spiritual – cannot be developed in isolation from each other. The process of a person's development is, by definition, an integrated one.

It should be noted that the statement of the purpose of the Scout Movement emphasizes the fact that Scouting is but one of several factors which contribute to the development of young people. Scouting therefore is not meant to replace family, school, religious and other social institutions; it is conceived to complement the educational impact of these institutions.

It is also important to point out that the concept of responsible citizenship, which is one of the fundamental goals of Scouting, must be understood in a broad context. Thus, a person is, first and foremost, an individual. This individual is integrated into his community, which is part of a wider political structure (district, province, state, canton, etc.) the total expression of which is the sovereign state, or country. The latter is, in turn, a member of the international community. A responsible citizen must be aware of his rights and obligations in relation to the various communities to which he belongs.

スカウト運動の原理

原理は、目的を達成する際に守らねばならない基本的な規則と信念のことである。原理はスカウト運動の全ての加盟員を特徴づける行動規範を表したものである。スカウティングはその基本的な規則と信念を表している3つの幅広い原理に基礎が置かれている。これらは「神へのつとめ」、「他へのつとめ」、「自分へのつとめ」と言われている。これらの名前が示すように、最初のもは人生の精神的価値と人のつながりのことを言っている。2番目のものは言葉の最も広い意味で社会と人のつながりのことであり、3番目は自分自身に対しての人の義務に対して述べたものである。

神へのつとめ

「神へのつとめ」というタイトルで、上に述べたスカウト運動の原理の最初は「*信仰上の原則の堅持、それらを表明する宗教への忠誠、およびそこから生じる義務の受け入れ*」と定義されている。タイトルとは対照的に、この文章そのものには「神」という単語が使われていないということに注目すべきである。それは、この条文がヒンズー教のような一神教、あるいは仏教のような人格神を認めていない宗教にも及ぶものであることを明確にするためである。

どこから宗教がスカウティングとガイディングにもたらされたのかと尋ねられた時、バーデン-パウエルは「*宗教はそもそも入ってくるものではなく、スカウティングとガイディングの根底にある根本的な要素としてすでにあるのだ。*」(引用：2)と答えている。

創始者の著作を注意深く分析してみると、人を超越する力の概念がスカウティングの基礎であることを示している。スカウト運動の全ての教育上の取り組みは、青少年が物質的な世界を超えて人生の精神的価値を探し求めることを助けることである。

他へのつとめ

この概括的な見出しの下で、スカウト運動のいくつかの基本的な行動や考え方の指針がまとめられている。というのは、さまざまな

PRINCIPLES OF THE SCOUT MOVEMENT

The principles are the fundamental laws and beliefs which must be observed when achieving the purpose. They represent a code of conduct which characterizes all members of the Movement. Scouting is based upon three broad principles which represent its fundamental laws and beliefs. They are referred to as "Duty to God", "Duty to others" and "Duty to self". As their names indicate, the first refers to a person's relationship with the spiritual values of life; the second, to a person's relationship with society in the broadest sense of the term; and the third, to a person's obligations towards himself.

DUTY TO GOD

Under the title "Duty to God", the first of the above-mentioned principles of the Scout Movement is defined as "*adherence to spiritual principles, loyalty to the religion that expresses them and acceptance of the duties resulting therefrom*". It should be noted that, by contrast to the title, the body of the text does not use the word "God", in order to make it clear that the clause also covers religions which are non-monotheistic, such as Hinduism, or those which do not recognize a personal God, such as Buddhism.

When asked where religion came into Scouting and Guiding, Baden-Powell replied "*It does not come in at all. It is already there. It is a fundamental factor underlying Scouting and Guiding*".(2)

A careful analysis of the Founder's writings shows that the concept of a force above man is basic to Scouting. The whole educational approach of the Movement consists in helping young people to transcend the material world and go in search of the spiritual values of life.

DUTY TO OTHERS

Under this general heading, a number of basic precepts of the Movement are grouped, since all deal with a person's responsibility towards

局面における社会に対する人の責任の全てを扱っているからである。他へのつとめはしたがつて、以下のように定義されている。

「-地域、国、国際間の平和と理解と協力の促進と調和した自らの国に対する忠誠
-同胞の尊厳や自然界の保全を認め、尊重する社会の発展への参画」

上に述べた最初の記述は、自らの国に対する忠誠心と世界的な友情と理解というスカウト運動の2つの基本概念に関するものである。自らの国に対する忠誠心という概念は偏狭で熱狂的な愛国者の概念ではなく、確かな見通しの下に考えられているものであることを示すためにこの2つは1つの記述にまとめられている。すなわち、地域、国、国際の全てのレベルで平和、理解、協力の促進に調和したものでなければならないということである。この取り組みは、創始者が以下のことを書いた時の彼の哲学を正確に反映したものである。「少年少女たちに愛国心を教え込む際、それは、たいていは自分自身の国のことのみを考える偏狭な感情(その結果、他の国々と対処するのに嫉妬心と敵意をもたらす)を必ず越えた愛国心であるようにしなければならない。我々の愛国心は、他の国々の主張に正義と妥当性を認める幅広く、より崇高なものであるべきである。そして、それが我々の国が世界の他の国々との友好関係につながるのである。この究極の目的に向けての第一歩は、それぞれの国において平和と善意を育てることである。それは男女の青少年を訓練し、そのことが彼らの生活習慣になるように練習することによって行うのである。そうするならば、町、階級、宗派間の嫉妬心はもはや無くなるであろう。そして、我々の限界を越えて我々の隣人に向けてこの善意の感情が広がっていく。」(引用：3)

スカウティングは誕生して以来、全ての国々の青少年の間に友情と理解を促進することが非常に大切であると考えてきた。青少年の多種多様な国際的な集会は、この達成目標を成し遂げるために用いる手段の最も目に見える行動に過ぎない。これはスカウトプログラムの日々の活動を通してもっと徹底して

society in its different dimensions. Duty to others is thus defined as:

"-Loyalty to one's country in harmony with the promotion of local, national and international peace, understanding and cooperation.
-Participation in the development of society, with recognition and respect for the dignity of one's fellow-man and for the integrity of the natural world."

The first statement mentioned above deals with two fundamental concepts of the Scout Movement: loyalty to one's country, and world friendship and understanding. Both are combined in a single statement in order to show that the concept of loyalty to one's country is not a narrow, chauvinistic concept, but one that is considered in a certain perspective; namely, that it must be in harmony with the promotion of peace, understanding and cooperation at all levels: local, national and international. This approach reflects faithfully the Founder's philosophy when he wrote that "we should take care, in inculcating patriotism into our boys and girls, that it is patriotism above the narrow sentiment which usually stops at one's own country, and thus inspires jealousy and enmity in dealing with others. Our patriotism should be of the wider, nobler kind which recognizes justice and reasonableness in the claims of others and which leads our country into comradeship with... the other nations of the world. The first step to this end is to develop peace and goodwill within our own borders, by training our youth of both sexes to its practice as their habit of life; so that the jealousies of town against town, class against class and sect against sect no longer exist; and then to extend this good feeling beyond our frontiers towards our neighbours..."(3)

Since its inception, Scouting has attached great importance to the promotion of brotherhood and understanding among young people of all nations. The multiple international gatherings of young people are only the most visible manifestation of the means used to achieve this goal, which is reached in more depth through the day to day

行われる。

2 番目の記述である「社会の発展への参画...」は、包括的な言い方で他への奉仕という基本原理を述べたものである。第一に、創始者の哲学にしたがうならば、奉仕というのはそのより一般的な意味において、社会の発展に対する貢献と考えられている。第二に、社会の発展はどんな代価を支払ってでも行えるというのではなく、人間の尊厳と本来の姿のままの自然を尊重することを基礎に行われねばならない。

人の尊厳という概念は国際社会の基本的な指針であり、世界人権宣言によって尊重されている。これはスカウティングの中でとられる全ての行動は人間に対する敬意を基に行われねばならないということを簡潔に表したものである。

本来の姿のままの自然界を尊重するという概念は、自然保護の考え方を示したものであり、これは常にスカウティングの基本である。これは地球上の人間の生活空間と今生きている生物は、その中で生態系全体と相互に依存するシステムを構成しており、どこかを少しでも傷つけたなら、システム全体に及ぶということを重視するものである。この概念は、発展の達成目標を追及する中で、人は自然界のバランスと調和を傷つけるようなやり方で自然資源を開発してはならないということを強調している。

自分へのつとめ

この原理は「自分自身の発達に対する責任」と定義されている。スカウティングは、したがって「神へのつとめ」と「他へのつとめ」の原理に基礎を置くだけでなく、人は自分自身の資質を伸ばすことに対して責任を負うべきであるという原理にも基礎を置いているのである。これはスカウト運動の教育目的と完全に一致している。スカウト運動のねらいは青少年の潜在的な能力の十分な発達(個性の「開花」と呼ばれているプロセス)を援助することである。この点において、ちかいとおきての役割は基本的なものである。

ちかいとおきての堅持

上に述べた精神的、社会的、個人的側面に関

activities of the Scout programme.

The second statement - "participation in the development of society..." - expresses the basic principle of service to others in a comprehensive manner. First, in accordance with the Founder's philosophy, the service is conceived in its broader sense, as a contribution to the development of society. Secondly, this development cannot take place at any price; it must be based upon the respect of the dignity of man and of the integrity of nature.

The concept of the dignity of man is a fundamental precept of the international community and is consecrated by the Universal Declaration of Human Rights. It simply means that every action undertaken within Scouting must be based upon the respect of the human being.

The concept of the integrity of the natural world expresses the idea of nature conservation, which has always been fundamental to Scouting. It emphasizes that the life-space of mankind on earth and the living organisms therein constitute an ecological whole, an interdependent system, and that any injury to any part is communicated to the whole system. This concept stresses that, in the pursuit of the development goal, man must not exploit natural resources in such a manner as to damage the balance and harmony of the natural world.

DUTY TO SELF

This principle is defined as "responsibility for the development of oneself". Scouting is thus based not only upon the principles of "Duty to God" and "Duty to others", but also on the principle that man should assume responsibility for the development of his own capacities. This is fully in harmony with the educational purpose of the Scout Movement, whose aim is to assist the young person in the full development of his potentials - a process which has been called the "unfolding" of the personality. In this respect, the role of the promise and law is a fundamental one.

ADHERENCE TO A PROMISE AND LAW

The above-mentioned principles relating to the

する原理は、スカウティングがよって立つ基本的な規則と信念を構成するものである。したがって、全てのスカウト連盟のプログラムは、これらの原理を基礎に青少年の成長のために最大限の機会を提供しなければならない。

スカウト運動の誕生以来、ある意味ではこれらの原理を明確に表現するための基本的なツール（これは、理解可能で青少年の心に訴えるもの）はちかいとおきてであり、これらは全てのスカウト連盟が持っていなければならないものである。

この点において、創始者によって最初に考え出されたちかいとおきてはインスピレーションをかきたてるものとして役立つものである。それは本運動の基本を具体的な形で示しているからである。とは言うものの、最初に作られたちかいとおきては20世紀初頭のイギリスの青少年のために書かれたものであったということを強く強調すべきである。各国連盟は、この基本に忠実さを保ちながら、ちかいとおきては確実に固有の文化と文明にあった現代的な言葉で記述されねばならない。

さまざまな言語で表現されることが確実にスカウト運動の単一性とその基本を忠実に守ることに影響を及ぼさないようにするために、各国連盟のちかいとおきては、初めて起草したり、修正をする場合はいつも世界機構の承認を受けることになっている。

spiritual, social and personal dimensions constitute the fundamental laws and beliefs upon which Scouting rests. Consequently, the programme of all Scout associations must provide maximum opportunities for the growth of young people on the basis of these principles.

Since the inception of the Movement, the basic tool for the formulation of these principles in a way that is understandable and appealing to young people, has been a promise and law, which all Scout associations must have.

In this respect, the original promise and law conceived by the Founder is a useful source of inspiration, since it embodies the fundamentals of the Movement. It should be strongly emphasized, however, that the original promise and law were written for young people in England at the beginning of the 20th Century. Each national association must ensure that its promise and law is formulated in a modern language adapted to its specific culture and civilization, while remaining faithful to the fundamentals.

In order to ensure that this diversity of expressions does not affect the unity of the Movement and fidelity to its fundamentals, the promises and laws of national associations, when first drafted and whenever modified, are subject to the approval of the World Organization.

スカウト教育法

方法は、目標を達成する際に用いられる手段、あるいは取られる処置として定義することができる。方法は運動の部分である場合は常に一連の原理を持っており、スカウティングの場合、方法はこれらの原理に基づいていなければならない。

スカウト教育法は「以下を通して行なわれる段階的な自己教育システムである

- ちかいとおきて
- 行うことによって学ぶ
- 小集団の一員となる (例えば、班)。これには、成人の指導の下で段階的な発見や責任の受け入れ、性格の発達に向けて方向づけられる自己抑制に向けた訓練、適性、独立独歩、信頼性、協力と指導の両方の能力の修得が含まれる
- 主に自然と触れ合う野外環境の下で行われるゲーム、役に立つ技能、地域社会への奉仕を含む参加者の興味に基づいた様々な活動の段階的かつ刺激的なプログラム」と定義されている。

スカウト教育法は上に述べたように、段階的な自己教育のシステムであり、諸要素が組み合わさった結果、達成されるものである。これについては以下に述べる。

これらの要素に触れる前に、スカウト教育法の定義における鍵となる概念を明らかにすべきである。この概念は、スカウト教育法は**段階的な自己教育システム**であるということである。それは、互いに依存する一群の要素が結びつけられ、統合された全体を形成するものとして考えねばならないという意味を含んだシステムであるということである。方法という単語が複数ではなく、単数で用いられているのは、こうしたことからである。というのは、それを構成するそれぞれの要素は、それだけでも1つの方法として考えることができるが(実際、他の運動によってそう見なされている)我々は、これら全ての要素が統合された教育システムに結びつけられた場合にだけ、スカウト教育法と呼ぶことができるからである。このシステムは**段階的自己教育**という考え方に基礎がおかれている。

SCOUT METHOD

A method can be defined as the means used or the steps followed in attaining the objectives. Whenever it is part of a Movement having a set of principles, as is the case with Scouting, the method must be based upon those principles.

The Scout method is defined as "a system of progressive self-education through:

- A promise and law.
- Learning by doing.
- Membership of small groups (for example the patrol), involving, under adult guidance, progressive discovery and acceptance of responsibility and training towards self-government directed towards the development of character, and the acquisition of competence, self-reliance, dependability and capacities both to cooperate and to lead.
- Progressive and stimulating programmes of varied activities based on the interests of the participants, including games, useful skills, and service to the community, taking place largely in an outdoor setting in contact with nature."

The Scout method is thus a system of progressive self-education, to be reached as a result of a combination of elements, which are outlined below.

Before dealing with these elements, the key concept in the definition of the Scout method should be underlined. This concept is that the Scout method is a **system of progressive self-education**. The fact that it is a system implies that it has to be conceived as an interdependent group of elements forming a unified and integrated whole. That is why the word method is used in the singular, not in the plural. For, while each of the elements comprising it can be considered as a method in its own right (and are, in fact, considered so by other movements), we can only speak of the Scout method when all these elements are combined within an integrated educational system. This system is based upon the idea of **progressive self-education**.

ちかいとおきて

スカウト教育法の最初の要素は、**ちかいとおきて**である。ちかいとおきてがスカウト運動の原理を明確に述べたものとして基本的なツールであるということはすでに見てきた。しかし、ここでは、ちかいとおきてに含まれている道徳的な原理よりは、教育の方法としての役割についてより大きく扱うことにする。ちかいとおきてを通して、青少年は自らの自由な意思に基づいて決められた行動の規律に対して個人的な約束をし、仲間たちの前で決められた言葉をきちんと守るという責任を負う。これらの道徳的な価値を伴った永続する一体感と自らの能力の最善をつくす（「私の最善を尽くします」）という理想にふさわしい生き方をするようたゆまぬ努力をするということは、したがって青少年の発達の点において最も強力な手段である。

行うことによって学ぶ

スカウト教育法のもう一つの基本的な要素は活動学習の概念、あるいはもっと簡単に言うと、**行うことによって学ぶ**ということである。これは現代教育の基礎となっている。この概念は創始者の著作の至る所に見られ、彼は「少年はじつくり考えるよりはむしろ、常にすぐに行うものだ」（引用：4）と順序だてて力説している。

学ぶことは観察や経験、個人的な活動によらねばならないというスカウティングの考え方は、活動学習の分野における最も偉大な専門家の1人であるマリア・モンテッソーリ博士*から称賛されたものである。子どもたちが6歳から7歳の幼年期から成長したら、あなたのシステムはどのように適用されるのかとモンテッソーリ博士が尋ねられた時、彼女は「あなたの国にはボーイスカウトがあります。彼らの訓練は私が子どもたちに提供しているものをそっくり継承しているものです」（引用：5）と答えている。

行うことによって学ぶという概念に基礎をおかないプログラムはスカウトプログラムとみなすことはできない。

*訳注：Maria Montessori 1870-1952 イタリアの教育家、医師、幼児教育の Montessori Method(1907, 児童自身に自学させることを主眼とし、特に感情教育を強調する)を提唱した。

A PROMISE AND LAW

The first element of the Scout method is a **promise and law**. It has already been seen that the promise and law are the basic tools for the formulation of the principles of the Scout Movement. Here, however, we are concerned not so much with the ethical principles contained in the promise and law, but more with its role as an educational method. Through the promise and law, a young person makes, of his own free will, a personal commitment to a given code of behaviour and he accepts, before a group of peers, the responsibility to be faithful to the given word. The permanent identification with these ethical values, and the sustained effort to live up to those ideals to the best of his ability ("I will do my best") are therefore a most powerful instrument in the development of young people.

LEARNING BY DOING

Another basic element of the Scout method is the concept of active education, or more simply, **learning by doing**, which has become a cornerstone of modern education. This concept appears throughout the writings of the Founder, who has systematically emphasized that "a boy is always ready to **do** rather than to **digest**".(4)

The idea in Scouting that learning must be by observation, experimentation and personal activity was praised by Dr. Maria Montessori, one of the greatest authorities in the field of active education. When asked how her system would be applied to children when they had grown out of the infant stage after six or seven years of age, Dr. Montessori replied: "You in England have the Boy Scouts, and their training is a natural continuation of that which I give to the children." (5)

A programme which is not based upon the concept of learning by doing cannot be considered a Scout programme.

小集団の一員

スカウト教育法の3番目の基本的な要素は**小集団の一員**であるというシステムである(例えば、パトロール・システム)。社会化をもたらす(すなわち、青少年が社会生活の中に融け込むことを促進すること)ものとして、小集団の長所は社会科学によって以前から認められてきた。この点で、仲間集団の中で人との関係は初歩的な段階で生じるということはよく知られた事実である。

少人数、人間関係が長く続くという特徴、目標を持った集団全員の一体感、集団内の他の人たちの完璧な知識、集団内でお互いを正しく評価すること、自由な感覚と自発性、日常的に行われる社会的なコントロール、これらは全て、成人の段階に変わっていくプロセスを経験する青少年にとって理想的な環境をもたらすものである。

ということで、この小集団活動は青少年にとって段階的に新しいものを見出し、責任という考え方を受け入れ、自己管理に向けて自分たちを訓練する機会を提供するものである。これは青少年の性格の発達を促進し、適性、自助努力、信頼性、協力と指導の両方の資質の修得を可能にするものである。

上記のプロセスの中で、成人の役割は手引きの1つである。それは、青少年が社会生活の中で責任を引き受ける潜在的な能力を見出すよう援助することにある。成人の役割は管理の1つとして考えるべきではない。というのは、青少年は自分たちの個性が尊重され、正しく評価される状況の中でのみ十分に発達できるからである。青少年と成人との間でこの協力関係が正しく適用されるなら、対話のための場と世代間の協力をもたらしてくれるので、現代社会の基本的なニーズを満足させる。

段階的かつ刺激的なプログラム

上に述べたスカウト教育法の3つの要素は、スカウトプログラム中で具体的に述べられている。スカウトプログラムはスカウティングで青少年が実践する活動の総体のことである。このプログラムは全体が1つのまとま

MEMBERSHIP OF SMALL GROUPS

A third basic element of the Scout method is the system of **membership of small groups** (for example the patrol system). The advantage of small groups as agents of socialization - i.e. facilitating the integration of young people in social life - has long been recognized by social science. In this respect, it is an acknowledged fact that, in the peer group, relationships take place at the primary level.

The small number of people, the lasting character of the relationship, the identification of all the members of the group with the objectives, the thorough knowledge of other persons in the group, the mutual appreciation within the group, together with the feeling of freedom and spontaneity and the fact that social control takes place informally - all this provides an ideal atmosphere for young people to undergo the process of their transformation into the adult stage.

This small group operation thus provides opportunities for young people to progressively discover and accept the idea of responsibility and trains them towards self-government. This facilitates the development of young people's characters and enables them to acquire competence, self-reliance, dependability and capacities both to cooperate and to lead.

In the above process, the role of adults is one of guidance. It consists in helping young people to discover their potential to assume responsibility in social life. The role of adults should not be conceived as one of control, since young people can only develop fully a climate of respect and appreciation of their personality. When truly applied, this relationship between young people and adults fulfills an essential need of modern society, since it provides a platform for dialogue and cooperation between generations.

PROGRESSIVE AND STIMULATING PROGRAMMES

The three elements of the Scout method mentioned above are concretely expressed within a Scout programme, which is the totality of activities practised by young people in Scouting. This programme must be conceived

ったものとして考えられねばならないものであり、種々雑多なものや関連性のない活動を寄せ集めたものとして考えられるべきではない。このプログラムの基本的な特徴はスカウト教育法の4番目の要素となるものである。

スカウトプログラムは、そういうことで青少年の漸進的かつ調和のとれた発達のためのニーズを満たすために**段階的な方法**で表現されねばならない。この段階を達成する1つのツールは**考査とバッジシステム**である(あるいは**進歩課程**、**進歩計画**など)。

この目標を達成するには、プログラムはまた取り組む人たちに**アピール**するために**刺激的なもの**でなければならない。この点で、**プログラムは参加者の興味に基づいた多様な活動**がバランスよく組み合わさってなければならない。これは、プログラムを作成する際に守られたならば、その成功を保証する最高のものの1つである。

多様な活動をバランスよく組み合わせる中で、**ゲーム**、**役に立つ技能**、**地域社会への奉仕**は3つの主要な分野であり、プログラムを作成する際に考慮すべきことである。これら3つの分野を含んだ活動の調和のとれた組み合わせは、プログラムが確実にその教育目標に到達するのに最もよい方法である。

スカウティングが誕生して以来、**自然と野外での生活**は、スカウト活動にとって理想的な枠組みとして考えられてきた。創始者は自然を非常に重視した。事実、彼は「スカウティング・フォア・ボーイズ」に「ウッドクラフトを通して良き市民性を教え込むためのハンドブック」という副題を付けており、ウッドクラフトのことを「動物と自然に関する知識」と定義した。(引用：6)

ベーデン・パウエルが自然を重視したことは青少年の身体的発達のために野外における生活をもたらす明らかな利点のせいだけではない。

ということで、知的な発達という観点からは、自然が与えてくれるおびただしい数の挑戦課題は青少年の創造的資質を刺激し、ほとん

as an integrated whole and not as a collection of miscellaneous and unrelated activities. The basic characteristics of this programme constitute the fourth element of the Scout method.

The Scout programme must thus be conceived in a **progressive** way in order to satisfy the need for a gradual and harmonious development of young people. One tool to achieve this progression is the test and badge system (or progressive scheme, advancement plan, etc.).

To achieve its objectives, a programme must also be **stimulating** in order to appeal to those to whom it is addressed. In this respect, the programme should be a balanced combination of **varied activities** which are **based on the interests of the participants**. This, when observed in the design of a programme, is one of the best guarantees for its success.

In the balanced combination of varied activities, **games**, **useful skills and services to the community** are three major areas which should be taken into account by those designing a programme. A harmonious combination of activities falling within these three areas constitutes the best way to ensure that the programme reaches its educational objectives.

Since the inception of Scouting, **nature and life in the outdoors** have been considered as the ideal framework for Scout activities. The Founder attached a very great importance to nature. Indeed, he subtitled "Scouting for Boys", "*A handbook for instruction in good citizenship through woodcraft*" and he defined woodcraft as being the "*knowledge of animals and nature*".(6)

The importance attached by Baden-Powell to nature was not only due to the obvious benefits of life in the outdoors for the physical development of young people.

Thus, from the point of view of intellectual development, the numerous challenges that nature presents stimulate the creative capacities of young people and enable them

どの都市における整えられ過ぎた生活では決して与えられることのない要素の組み合わせを基に彼らが解決に至れるようにしてくれる。

さらに、社会的な発展の観点からは、危険とやりがいのある課題を共に分かち合うことや極めて重要なニーズに対する満足感のためにみんなで奮闘することは、集団のメンバーたちの間に強力な結びつきを生み出すのである。これは、青少年に社会における人生の意味と重要性を十分に理解できるようにするものである。

最後に、自然は青少年の精神的な発達の中で基本的な役割を果たしている。創始者自身の言葉の中に「無神論者は...人によって書かれた本から学ばねばならない宗教は本物ではないと主張する。しかし、彼らは印刷された本以外は読むとは思えない...神は我々に1つの手本として自然という偉大な本を読むよう与えてくれた。そして、無神論者たちは自然の中に真実でないものがあるとは言えないのである。事実が彼らの目の前にある...私は礼拝の一形式として、あるいは宗教の代わりとして自然研究を提案するのではなく、ある場合に宗教をもたらす1つの手段として自然を理解することを薦めるのである。」(引用：7) とある。

したがって、ベーデン-パウエルにとっては「不思議なことは...中でも最も不思議なことは、いかに多くの先生たちが、この(すなわち、自然研究)簡単で確かな教育手段を無視して、じっとすることのない元気いっぱいの少年たちをより高尚なことを考えるようにするための最初の一步として聖書を詰め込むことを押しつけようと奮闘していることである。」(引用：8)

ということで、可能ならいつでもスカウト活動は自然と接する野外の環境で行うべきである。それは調和と統一のとれた青少年の発達をもたらすことのできる理想的な環境を提供してくれるからである。

to reach solutions based on combinations of elements which the over-organized life in most cities would never have provided.

Furthermore, from the point of view of social development, the common sharing of risks and challenges and the collective struggle for the satisfaction of vital needs, creates a powerful link between members of the group. It enables them to understand fully the meaning and importance of life in society.

Finally, nature plays a fundamental role in the spiritual development of young people; in the Founder's own words "The atheists... maintain that a religion that has to be learnt from books written by men cannot be a true one. But they don't seem to see that besides printed books... God has given us as one step the great Book of Nature to read; and they cannot say that there is untruth there – the facts stand before them... I do not suggest Nature Study as a form of worship or as a substitute for religion, but I advocate the understanding of Nature as a step, in certain cases, towards gaining religion".(7)

Consequently, to Baden-Powell, "the wonder... of all wonders is how some teachers have neglected this (i.e. nature study) easy and unfailing means of education and have struggled to impose Biblical instruction as the first step towards getting a restless, full-spirited boy to think of higher things."(8)

Whenever possible, therefore, Scout activities should take place in an outdoor setting, in contact with nature, since it provides the ideal environment in which a harmonious and integrated development of the young person can take place.

引用資料

P.3 (1) 隊長の手引き

B-P 著 発行日不詳(1919), P. 43

P.6 (2) 宗教とボーイスカウトとガールガイド運動

- 1926 年、ハイ・レイでの合同コミッショナー会議でのB-Pの演説

P.7 (3) スカウティングと青少年運動

B-P 著
1929 年, P. 72-73

P.11 (4) 隊長の手引き

世界友愛版
1949 年, P. 90

P.11 (5) 1 の P.21

P.13 (6) スカウティング・ファア・ボーイズ

B-P 著
1908 年版, P. 81

P.14 (7) ロバーリング・ツウ・サクセス

B-P 著
1930 年版, P. 181

P.14 (8) 隊長の手引き

改定4版 発行日不詳, P. 96

本書は、世界事務局 (P. O. Box 241 1211 ジュネーブ 4. スイス) のプログラム部によるスカウトプログラムの要素第1部第1章からの再版である。

スカウティングの基本原則に関する視聴覚資料を使った説明も世界事務局から入手できる。これには50枚のスライドとカセットと台本が含まれる。

REFERENCES

1.Aids to Scoutmastership

Robert Baden-Powell;
London. n.d.(1919)p.43

2.Religion and the Boy Scout and Girl Guides Movement

-an address to the Joint Conference of Commissioners at High Leigh, 1926, Robert Baden-Powell

3.Scouting and Youth Movements

Robert Baden-Powell,
London, 1929, pp.72-73

4.Aids to Scoutmastership

World Brotherhood Edition,
London, 1949, p.90

5. *ibid*

1919 edition, p.21

6.Scouting for Boys

Robert Baden-Powell,
1908 edition, p.82

7.Rovering to Success

Robert Baden-Powell,
1930 edition, p.181

8.Aids to Scoutmastership

4th impression, n.d., p.96

This book is reprinted from **Elements for a Scout Programme**, Section I, Chapter 1, published by the Programme Service, World Scout Bureau, P.O. Box 241 1211 Geneva 4, Switzerland.

An audio-visual presentation on **The Fundamental Principles of Scouting** is also available from the World Scout Bureau. It includes 50 slides, a cassette and a script.

1. 憲章

前文

1907年にロバート・ベーデン-パウエルによって創始されたスカウト運動を採用し、実践してきた各国連盟の正式の代表たちは、1922年にフランスのパリに集まり、世界中のスカウト運動のために国際スカウト会議と共に執行委員会と事務局を設置した。

現行のこの規約は、世界的な協力、友情、兄弟愛の精神の下に、スカウト運動の世界機構の運営の基準となるものである。

第1章 スカウト運動

第1章 定義

1. スカウト運動は、創設者によって考案された目的、原理、方法、および以下に述べる事柄に従って、出生、人種、信条の区別なくすべてに関わっている青少年のための自発的で、非政治的な教育的運動である。

目的

2. スカウト運動の目的は、青少年が個人として、責任ある市民として、地域、国、国際社会の一員として、身体的、知的、社会的、精神的な潜在的能力を十分に達成するよう彼らの発達に貢献することである。

第2条 原理

1. スカウト運動は、以下の原理に基づいている：

●神へのつとめ

信仰上の原則の堅持、それらを表明する宗教への忠誠、およびそこから生じる義務の受け入れ。

●他へのつとめ

-地域、国、国際間の平和と理解と協力の促進と調和した自国に対する忠誠。

-同胞の尊厳や自然界の保全を認め、尊重する社会の発展への参画。

I. CONSTITUTION

PREAMBLE

Accredited representatives of National Scout Associations, which had adopted and practiced the Scout Movement founded by Robert Baden-Powell in 1907, assembled in Paris, France, in July 1922 and established the International Scout Conference for the coordination of the Scout Movement throughout the world, together with an Executive Committee and a Secretariat.

The present Constitution governs the operation of the World Organization of the Scout Movement in a spirit of world cooperation, friendship and brotherhood.

CHAPTER I THE SCOUT MOVEMENT

ARTICLE I Definition

1. The Scout Movement is a voluntary non-political educational movement for young people open to all without distinction of origin, race or creed, in accordance with the purpose, principles and method conceived by the Founder and stated below.

Purpose

2. The purpose of the Scout Movement is to contribute to the development of young people in achieving their full physical, intellectual, social and spiritual potentials as individuals, as responsible citizens and as members of their local, national and international communities.

ARTICLE II Principles

1. The Scout Movement is based on the following principles:

●Duty to God

Adherence to spiritual principles, loyalty to the religion that expresses them and acceptance of the duties resulting therefrom.

●Duty to others

-Loyalty to one's country in harmony with the promotion of local, national and international peace, understanding and cooperation.

-Participation in the development of society with recognition and respect for the dignity of one's fellow-man and for the integrity of the natural world.

- 自分へのつとめ
自分自身の発達に対する責任

ちかいとおきての堅持

2. スカウト運動の全ての加盟員は、各国盟組織の文化や文明に適切、かつ世界機構によって承認された言語で、神へのつとめ、他へのつとめ、自分へのつとめという原理を反映するスカウトのちかいとおきてを堅持することが要求され、また、スカウト運動の創始者によって考えられた、以下の表現によるちかいとおきてによって導かれる。

スカウトのちかい

私は名誉にかけて、次のことに最善を尽くすことを誓います—
神と国王（あるいは、神と私の国家）に対する私のつとめを果たすこと；
いつでも他の人々を助けること；
スカウトのおきてを守ること；

スカウトのおきて

1. スカウトの名誉は、信頼されることである。
2. スカウトは忠節である。
3. スカウトのつとめは、他人の役に立ち、他人を助けることである。
4. スカウトはすべての人々の友人であり、他のすべてのスカウト全員と兄弟である。
5. スカウトは礼儀正しい。
6. スカウトは動物の友である。
7. スカウトは、親や班長または隊長の命令に黙って従う。
8. スカウトは、いかなる苦境にあっても微笑み、口笛を吹く。
9. スカウトは儉約する。
10. スカウトは、思考、言葉、行動において健全である。

第3条 方法

スカウト教育法は以下を通して行なわれる段階的な自己教育のシステムである。

- ちかいとおきて
- 行うことによって学ぶ
- 小集団の一員となる（例えば、班）。これには、成人の指導の下で段階的な発見や責任の受入れ、性格の発達に向けて方向づけられる自己抑制に向けた訓練、適性、独立独歩、信頼性、協力と指導の両方の能力の修得が

- Duty to self
Responsibility for the development of oneself.

Adherence to a Promise and Law

2. All members of the Scout Movement are required to adhere to a Scout Promise and Law reflecting, in language appropriate to the culture and civilization of each National Scout Organization and approved by the World Organization, the principles of Duty to God, Duty to others and Duty to self, and inspired by the Promise and Law conceived by the Founder of the Scout Movement in the following terms:

The Scout Promise

On my honour I promise that I will do my best —
To do my duty to God and the King (or to God and my Country);
To help other people at all times;
To obey the Scout Law.

The Scout Law

1. A Scout's honour is to be trusted.
2. A Scout is loyal.
3. A Scout's duty is to be useful and to help others.
4. A Scout is a friend to all and a brother to every other Scout.
5. A Scout is courteous.
6. A Scout is a friend to animals.
7. A Scout obeys orders of his parents, Patrol Leader or Scoutmaster without question.
8. A Scout smiles and whistles under all difficulties.
9. A Scout is thrifty.
10. A Scout is clean in thought, word and deed.

ARTICLE III Method

The Scout Method is a system of progressive self-education through:

- A promise and law.
- Learning by doing.
- Membership of small groups (for example the patrol), involving, under adult guidance, progressive discovery and acceptance of responsibility and training towards self-government directed towards the development of character, and the acquisition

含まれる。

●主に自然と触れ合う野外環境の下で行われるゲーム、役に立つ技能、地域社会への奉仕を含む参加者の興味に基づいた様々な活動の段階的かつ刺激的なプログラム。

of competence, self-reliance, dependability and capacities both to cooperate and to lead.

● Progressive and stimulating programmes of varied activities based on the interests of the participants, including games, useful skills, and services to the community, taking place largely in an outdoor setting in contact with nature.

(注：上記の訳文は既に邦訳されているものとは、若干異なる表現を用いてある)

*文中の(引用：)は15ページの引用資料を示すものです。

基本原則

品番69875

定価 200円

2002年12月25日 初版発行
2003年6月20日 第2刷発行

監修 アダルトリソース委員会

発行



財団法人

ボーイスカウト日本連盟

〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
電話 0422(31)5161(代)
ファクシミリ 0422(31)5162
U R L <http://www.scout.or.jp/>

0306共B3NPUCHNN